



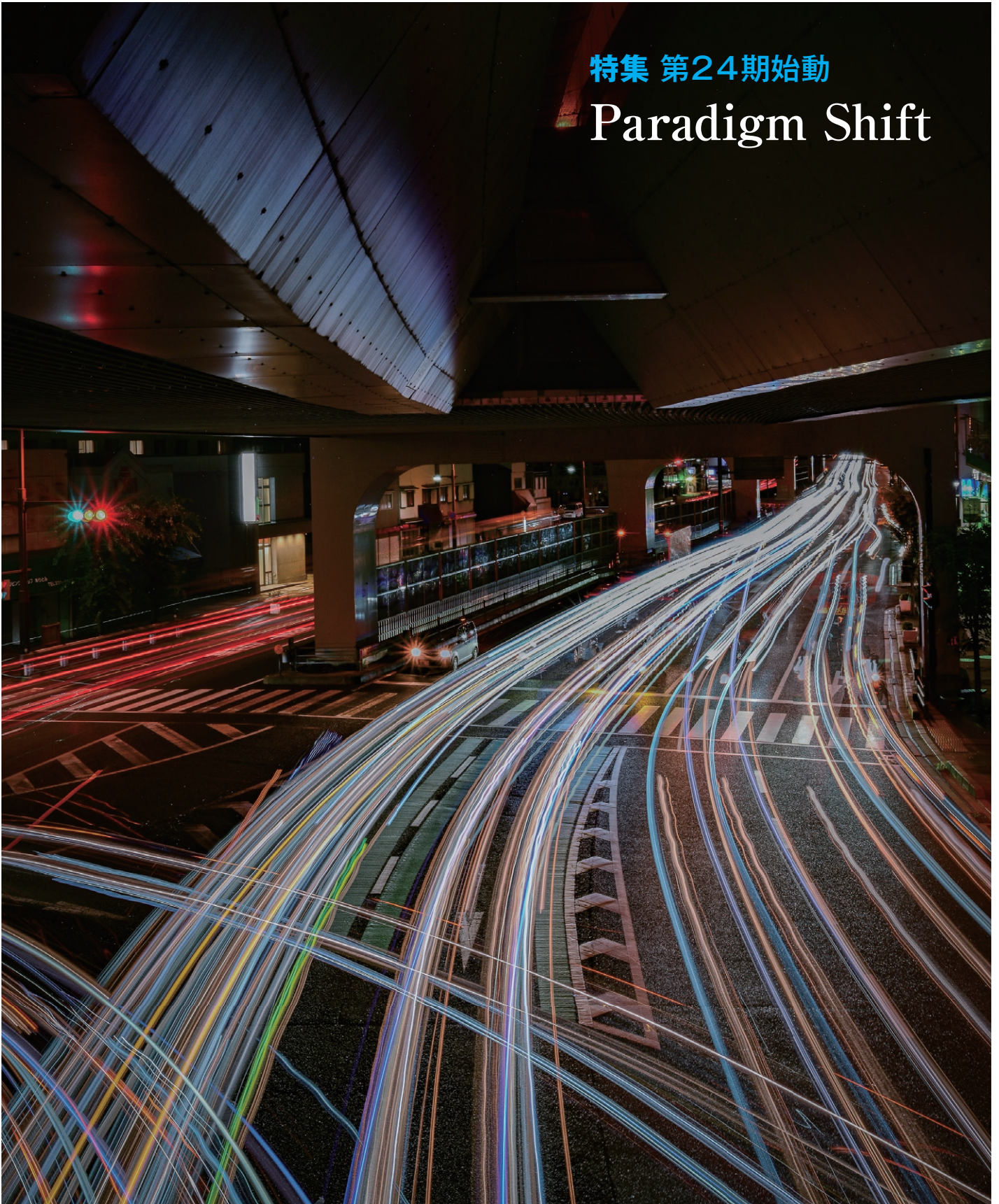
全 国 曹 洞 宗 青 年 会

SOUSEI

2021.08
Vol.194

特集 第24期始動

Paradigm Shift





PARADIGM SHIFT 第24期始動

新会長 山田俊哉インタビュー

コロナ禍の中、そしてアフターコロナを見据え、ニューノーマルが一層意識される昨今、社会変化の中にあつて、全国曹洞宗青年会（以下、全曹青）はどんな在り方を目指すのか。この度第24期を迎えた全曹青のこれからについて、山田俊哉新会長に話を伺いました。

■会長という立場になるにあたり、これまで参加された全曹青の活動を振り返ってみて、いかがでしょうか

思い返すと12年を越える長期にわたり、全曹青に出向させていただいています。第18期から出向し、最初はICT（情報通信技術）担当庶務のお役をいただきました。ホームページのリニューアルや、オンラインショップの開設などを手掛けました。

熱心に議論し活動する諸先輩方のバイタリテイには、本当に圧倒されました。ついていけるか不安でしたが、当時の会長は、「全曹青は有能な人の集まりではなく、一生懸命取り組む人の集まりだ」とよく仰っていました。その言葉を聞いて、私も自分のできる精一杯で会務に向かうことができました。全国から集まった懸命に会務に取り組む人達の中で、自分も懸命に打ち込む、とても充実した経験をさせていただいていると感じました。

第18期の最後には東日本大震災が発災し、第19期では支援活動に参加させていただきました。またそこから、広報委員会や

事務局次長、総合企画委員会を経験させていただきました。ホームページの運営やアプリソウセイの開発、内部の事では会議のペーパーレス化、会議資料のクラウド共有などに取り組みました。また第22期には事務局長を拝命し、映画『典座―TENZO―』の制作にも参加させていただきました。そして前期第23期には、副会長として新型コロナウイルス感染拡大の中、需要を高めたオンライン事業の展開に大きく関わることとなりました。

■これまでパソコン関係や、ウェブ展開の事業に多く取り組んできました

たしかにこうして改めて振り返ると、継続してICTの活動を続けてきました。そしてそのような中で世間は、新型コロナウイルス感染拡大による大きな社会変化を迎えることとなりました。対面を制限される中、オンラインでの交流や自宅で楽しめるコンテンツの需要が拡大し、今まで積み上げてきた全曹青の活動が、オンラインという形で活かされることとなりました。

私がこれまで特に取り組みさせていただいていた活動が、この第24期会長を務めさせていただくタイミングでより重要なものとなりました。ここには、何かの巡り合わせを感じざるを得ません。会長として、これまで以上に自分の出来ること、なすべきことに打ち込んでいきたいと思います。

■スローガン『Paradigm Shift』に込められた、第24期全曹青の在り方とは

全曹青の活動には「心豊かな社会の形成を目的とする」という目標があります。新型コロナウイルス感染症拡大や、SDGsへの機運が高まる時代に際し、心豊かな社会とはどんなものであるか。そして今の「大衆教化の接点」とは何かを、私達青年僧侶は考え応えていかなくてはなりません。

具体的な接点を考えた時、このオンラインという接点は大きな柱となるでしょう。これは自宅にいながら全国、全世界をつなげる架け橋となります。全曹青だけでなく、先行してオンライン活動を行う青年会も沢山あります。またそういった活動に取り組みたくとも、専門的な技術を持っていない青年会もあります。全曹青を中継点として経験と技術を共有し、各地の青年会同士の協働を生むこともできるはずです。

来期には全曹青創立50周年を迎えます。そこに向けて、さらなる連携強化が必要です。オンラインはこの連携にとって非常に有意義です。対面だからこそ実現する事も大切にしつつ、各曹青会からの全曹青出向者を入り口として、連携を強化したいと思っています。またオンラインは、国際事業とも非常に相性が良いものです。その利点も活かし、世界に向けた事業にも取り組んでいきたいと考えています。

第24期のスローガン『Paradigm Shift』には、社会変化のマイナス面だけに目を向

けず、新しい活動も生まれるというプラスの視点が含まれています。これまで地域を越えて様々な活動を展開してきた全曹青には、さらなる成長を目指す気持ちが大切だと考えています。今まで積み重ねてきた全曹青の活動に、オンラインというさらなる成長の場が訪れました。改めて「自由で創造的な活動」に挑戦していく所存です。

■連携強化にあたり、私達全曹青出向者が地元曹青会に還元できることはなんだろうか

先程も少し触れましたが、全曹青に身を置く事で、通常交流する機会がない遠方の活動に触れる機会が多くあります。例えば私が所属する秋田曹青は、多くの会員が一致団結し、活発に活動しています。特に、

ITでは私より先に全曹青で活躍されていた先輩もいらつしやいまして、私はそれを引き継ぐ形で、秋田と全曹青両方の活動に参加することができました。そこで全国を見ると、他にもそれぞれの青年会の特色をもつて、活発に活動されている曹青会が沢山ある事も知りました。それが刺激となり、地元曹青会での活動にも、より積極的に取り組み意欲が生まれました。

全曹青出向者には経験を地元を持ち帰ることを大切にいただいています。具体的な経験は人それぞれですが、還元とは今お話したように刺激と向上心を持ち帰り、地元曹青会で懸命に活動することだと思います。それによって地元で活動する全曹青出向者を通して、他の青年僧侶も全国に目を向けることへと繋がるはずです。この連鎖が生まれることこそ、地元曹青会への一

番の還元だと思っています。

■これまで培ってきた各地との連携で、生まれたものとは

最近で言えば、いずも曹青と一緒に作り上げた「ASMR精進料理」動画の制作や、各地方での「味来食堂」の開催があげられます。

また、「こども自然ふれあい広場」は、各曹青会が企画し、その活動に全曹青が協力する形で取り組んでいます。さらに近年では映画『典座―TENZO―』でも、沢山のお力添えを頂戴しました。

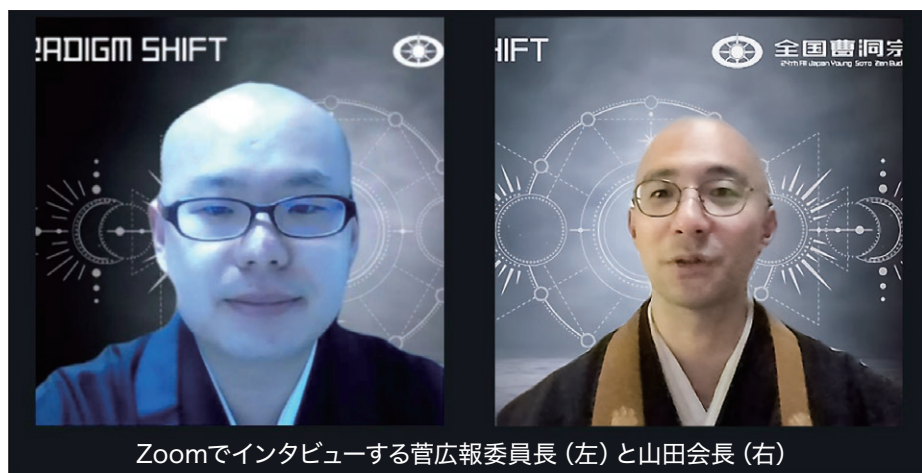
他にも、各地のボランティア活動に参加させていただく場合も多くあります。今期には東日本大震災13回忌もございます。全国各地から沢山の方が駆けつけた発災当



PROFILE

やま だ しゅん さい
山田 俊哉

昭和55年7月23日生まれ
秋田県能代市 倫勝寺住職
秋田県曹洞宗青年会所属
第18期より全曹青出向
第22期事務局長、第23期副会長
第24期会長



時、毎日懸命な活動が続きました。その当
時を思い出すと、胸にこみ上げてくるもの
があります。近年頻発する自然災害を受
け、協力意識も増えています。この諸先輩
方から引き継いだ想いと連携への意識を、
全国規模でさらに広げていきたいと考え
ています。

■社会変化に正面から向き合う第24期、ど
んな活動を予定していますか

この誌面が皆様のもとに届く翌9月には、大本山總持寺開創700年記念事業へも参加させていただきま。現在、事業計画を進めております。オンラインでも配信しますので、広く沢山の方にご参加いただければと思います。また来期には全曹青創立50周年を迎えます。広報誌の200号も今期ですので、50周年に向かう事業を展開していきたいと考えています。

第24期は、社会変化を見据えた活動を大きなテーマとしています。しかし社会変化は今期に限ったことではなく、これから先も様々な変化は続いていくでしょう。私はこれまで、地元である秋田曹青と全曹青に長期参加し、まさに青年会に育てていただいたと思います。青年会を通して広い世界を知れたからこそ、変化に負けることなく活動することができています。経験を糧に、全国の青年僧侶の活躍を後押しできるよう、真摯に活動してまいります。皆様、二年間何卒よろしく願いいたします。

取材／ 広報委員長 菅 悠生
広報委員 菅原貴俊

公式HP『般若』で山田会長の
の所信表明をご覧ください
ます。



ソウセイ ネットワーク

秋田県曹洞宗青年会

第24期全曹青はそのスケールメリットを活かし、加盟曹青会の活動情報を全国に共有し、青年会活動のさらなる活性化を目指しています。

そこで今号では、山田会長の所属する秋田県曹洞宗青年会

(以下、秋田曹青)の活動について、栗谷大三会長にお話を伺いました。



昨年コロナ禍での「祈りのつどいオンライン」法要の様子

プロフィール

栗谷 大三

昭和 52 年 8 月 25 日生まれ

秋田県北秋田市 福厳寺住職

秋田県曹洞宗青年会 第 21 期会長

東北管区教化センター布教師

■秋田曹青の活動について、特に大切にしていることは何ですか

秋田曹青では、「祈りのつどい」という、自死の問題に向き合う活動を続けています。

平成13年、当時の秋田曹青では自死の問題に取り組むという活動テーマを掲げ、研修会を重ねました。平成15年、法要と法話、茶話会という「祈りのつどい」がはじまりました。ご遺族の深い悲しみを、少しでも置いていける場所を作る。当時の秋田曹青で大切にしていた想いを受け継ぎ、現在も継続して取り組んでいます。

基本的には二年に一度の取り組み



例年の「祈りのつどい」法要後には法話、茶話会が続く

で、近年は自死遺族の方に限らず、大切な人を亡くされた全ての方を対象に取り組んでいます。茶話会のために、グリーンフケアの専門の先生を講師に迎え、秋田曹青内で研修会を行い、茶話会に入ります。はじめて参加する僧侶

の中には、茶話会ではどのようにしたらいいのだろうと不安を持つ人が多くいます。その不安を和らげるためにも、大切な研修となっています。そのため茶話会での傾聴にも、大切に取り組んでいます。

■対象を広げたいきっかけは

秋田曹青内でこの事業に取り組む



全曹青とともに参加した東日本大震災支援の傾聴活動(岩手県山田町・龍泉寺)

ちに、寄り添うべき方が大勢いらつしやる事も意識するようになりました。事故や病気といった様々な苦難の中で、悲しみを抱えておられる方も多くいらつしやいます。また東日本大震災を含めた様々な自然災害や、日々複雑になる社会の現状を考えた結果、制限は設けずに取り組むこととなりました。

昨年は新型コロナウイルスの影響もあり、初めてオンライン配信を行いました。もしかしたらオンラインだからこそ、直接参加が難しい方とも繋がる事ができたのかもしれない。もちろん今後も実際に対面し、同じ空間で過ごす場とすることを大切にしていきたいと考えています。しかしオンラインでの取り組みも、並行して必要だと考えています。



(右)



グリーンケア研修の様子

■昨今、特に心の寄り添いというものが大切になってきたようにも感じます。こうした先行経験が活かされる場面はありましたか

例えば東日本大震災の頃、秋田曹青では何度も行茶活動に参りました。その活動ができたことは、これまでの経験が活かされていた結果だと思っています。また東日本大震災では、全曹青との連携もありました。震災は東北全体の出来事でしたから、もちろん秋田曹青だけが何か連携したわけではありません。ですが、全曹青災害復興支援部にコーディネートしていただいた活動であつたり、また全曹青と一緒に行茶活動に参加することもありました。これまでの活動の積み重ねがなければ、こうした連携にも発展しなかつたかもしれない。

震災や自死の問題に対して、何かしたい、何かできることはないかと考えた時、実際に何かを成すのは、自分一人だけでは大変難しいことです。ですがこれが青年会となると、同じ考えを持つ一人一人の力が集まり、大きな力となります。そういった集まることで生まれる推進力の大切さを、秋田曹青の活動を通して強く感じます。



栗谷大三・秋田曹青会長（左）、山田俊哉・全曹青会長

■これから、どのような活動を予定されていますか

今年には震災から10年という節目を迎えていますので、東北地方にいる私たちとしては、今一度この震災に向き合いたいと考えています。被災地の方はやはり今も震災時と変わらない気持ちを持たれています。しかし10年という時間を経て、秋田曹青にも新しい会員が増えています。当時の活動を経験していない会員も、被災地の現状や問題を学んで欲しいと思いますし、私達が何をすべきなのかということを、皆で考えていきたいと思います。

具体的な計画としては、10月に随聞会があります。そこで被災地に向けた「祈りのつどい」をお届けできればと考えています。祈りの法要を勤め、その後には被災地の当時の状況や、現状の姿を秋田曹青の会員に教えていただきたいと考えています。また、昨年中止となった「こども自然ふれあい広場」の開催も考えています。計画は整っていましたが、社会情勢が落ち着きま

す。福島の子ども達にぜひ秋田に来ていただき、存分に遊んでもらえたらと考えています。

を目標としています。檀家さまや広く一般の方と向き合う中で、その経験を活かしていくことを大切にしています。私達の取り組みも外部から見ると、もちろんまだまだ至らない点もあるはずですが、だからこそ会員一同が日々研鑽を重ね、真摯に活動していきたいと心がけています。

取材／広報委員長 菅 悠生
広報委員 菅原貴俊



庶務 高田大航



国際委員長 高柳龍哉



会長 山田俊哉

■秋田曹青より、3名が全曹青に出向しています



令和3年度禅文化学林 大本山總持寺開創700年奉讃イベント

相承と創造

700年の想いを明日へ

令和3年、大本山總持寺は開創700年と、平成19年に能登半島地震で被災した大本山總持寺祖院の復興落慶という節目を迎えます。

全曹青は禅の歴史や文化の更なる魅力発信と、それに伴う地域活性化に取り組む「禅と海 里づくり・交流促進プロジェクト」に発足当初から携わらせていただいております。令和3年4月6日には「大本山總持寺祖院落慶法要」に随喜させていただきました。

この度、令和3年9月11日・12日の二日間にあたり、全曹青は震災からの復興と開創700年の報恩を捧げるべく、大本山總持寺開創700年慶讃法要・御両尊御征忌会に合わせ、令和3年度禅文化学林「大本山總持寺開創700年奉讃イベント」を大本山總持寺祖院にて開催いたします。光栄なことに、9月12日には御征忌会・御両尊献湯諷經の焼香師を全曹青会長が勤めさせていただきます。

大会テーマを『相承と創造〜700年の想いを明日へ〜』とし、両祖から受け継がれる正伝の仏法を相承し、700年の悠久の時を連綿と受け継いできた大本山總持寺への敬慕をもって、明日そして未来へとその想いを繋ぐイベントとなるよう企画しております。

新型コロナウイルスの影響で事業の延期、規模の縮小を余儀なくされましたが、第24期スローガン『Paradigm Shift』の下、急速に変容する社会のニューノーマルを意識しつつ、新たな教化活動の在り方、可能性を模索するべく事業に取り組んでまいります。

令和3年度禅文化学林 大本山總持寺開創700年 奉讃イベント日程

各行事をオンライン
中継配信します。



9月11日

午後 各ブース実施
【「喫茶喫飯」、坐禅体験、写経体験、御朱印、
頒布・活動紹介、作務衣「一衣」販売】
16時半
映画『典座—TENZO—』上映会
17時半
映画に関する講話
山門プロジェクションマッピング
「ぜんのきらめき」
三重県曹洞宗青年会・和太鼓集団「鼓司」演奏

9月12日

午前 各ブース実施
午後 13時 僧侶行列・稚児行列
14時 五鑿三拝 御垂示（御親香）
14時半 御両尊献湯諷経
（全曹青焼香師）
15時 開創700年慶讃法要（御親香）

※映画本編は配信いたしません。

※新型コロナウイルスの感染状況により、行事が変更になる場合がございます。

行茶ブース「喫茶喫飯」

当初、精進料理をテーマとしたイベントを開催予定でしたが、新型コロナウイルスにより実施が困難になりました。そこで極力会話や接触を伴わず、精進料理や禅の教えに触れる機会として、曹洞宗法式の行茶作法にて参拝者をおもてなしいたします。瑩山禅師得悟の因縁にちなみ「喫茶喫飯」と名付け、参拝者の心身を調べ、大本山總持寺祖院参拝がよりよいものとなるようにと願いを込めて実施いたします。

※新型コロナウイルスの感染状況により、実施を慎重に判断いたします。

体験ブース

坐禅体験、写経体験、全曹青オリジナル御朱印、頒布物紹介、全曹青活動紹介の各ブースを設置し、参拝者と交流いたします。曹洞禅を体験していただき、大本山總持寺祖院参拝の思い出、全曹青ブースでの青年僧侶との触れ合いが心に残るものになるよう実施いたします。また、各ブースの様子をライブ配信し、全国で体験できるようお届けいたします。





大本山總持寺祖院山内でのブース活動などの様子の中継し YouTube チャンネルにて全国へお届けいたします。9月11日夕刻から中継を開始し、その夜には總持寺祖院山門にて行われるプロジェクションマッピング「ぜんのきらめき」と三重県曹洞宗青年会の和太鼓集団「鼓司」の演奏の中継いたします。

9月12日午後には御親香による開創700年慶讃法要と、全曹青会長が焼香師を務める御両尊献湯飢経のオンライン配信を予定しております。

「全曹青×加賀屋」精進料理動画

和倉温泉の老舗旅館「加賀屋」様ご協力のもと、動画を共同制作、配信いたします。加賀屋総料理長様と全曹青教化アドバイザーの河口智賢師の出演にて、禅を表現する精進料理の教えと、能登の伝統文化、食材を全国に発信することをテーマとした内容を予定しております。



加盟曹青会による制作動画の配信

コロナ禍における行事への新たな参画の在り方と、新たな教化活動の在り方、可能性の探求を目指し、加盟曹青会から動画を募集し奉讃イベント中に配信いたします。コロナ禍により現地に赴くことは叶わなくとも、この時勢だからこそ、遠方の地より報恩の誠を捧げることができます。是非ご覧ください。



能登半島地震復興落慶法要と御朱印謹呈

令和3年4月6日、全曹青は大本山總持寺祖院で厳修された能登半島地震復興落慶法要に随喜いたしました。大本山總持寺開創700年とこの節目を記念するため、この度全曹青オリジナル御朱印「瑞夢」を製作いたしました。法要当日には、原第23期会長より鈴木永一大本山總持寺祖院監院老師に、印と朱肉、額装した金箔漆塗りの印影を謹呈いたしました。

「瑞夢」とは、めでたい兆しの夢、縁起の良い夢、吉夢という意味を持ちます。その由来は、太祖瑩山禅師が能登の永光寺で瑞夢を感じ、大本山總持寺の前身となる諸岳寺の定賢律師も、同時期に観音菩薩から寺を譲るよう夢見た故事にちなみます。この御朱印は大本山總持寺祖院でいただくことができます。



令和3年度
中央研修会



5月11日、オンラインにて中央研修会が開かれました。

第23期の円成となる定期総会を翌日に控え、今回の中央研修会は「20年後も住職の青年僧侶たちへ」今を創ろう明日を咲かそう」と題した研修会でした。第23期基幹事業である「過疎問題への取り組み」を振り返り、2年間で得られた気付きから、これからの宗教者・仏教者、そしてそれを取り巻く環境を考えるべく開催されました。講師として、島蘭進氏、井出悦郎氏、またファシリテーターとして清野宏道師をお招きし、原知昭第23期会長とともに多角的な視点で過疎問題を見つめ、これから必要とされるであろう寺院や僧侶の在り方を考える研修となりました。

研修会は3部構成で進められ、第1



部では島蘭氏より、当会で取り組んだ過疎問題に関するアンケートや研修のフィードバックからの考察、また島蘭氏のこれまで取り組まれた研究から見る過疎問題の本質と、地域社会へのお寺の関わり方等、モデルケースを紹介していただきました。

続いて第2部では、実施した過疎問題へのアンケート結果の紹介、第3部ではパネルディスカッションへと移り

ました。清野師をファシリテーターに、島蘭氏と、寺院創生講座の講師を務めていただいた井出氏にご登壇いただき、原知昭第23期会長とともにパネルを務めていただきました。それぞれの立場から過疎問題への寺院のアプローチ方法について意見が交わされました。ディスカッションでは一般の方から望まれるお寺や僧侶の姿として、地域の寄り合いとしてのお寺の可能性や、僧侶個人として様々な事情を抱えた人を受け入れる「善意の第三者」である必要性が示されました。

文／広報委員長 菅 悠生

講師プロフィール

島蘭 進氏

東京大学大学院

人文社会研究科名誉教授

上智大学神学部特任教授

上智大学グリーンフケア研究所所長

井出悦郎氏

一般社団法人お寺の未来代表理事

ファシリテーター

清野宏道師

曹洞宗総合研究センター

未来創生研究部門主任



令和3年度 定期総会

令和3年5月12日、オンラインでの令和3年度定期総会が行われました。

総会に先立って、来賓である宗務庁教化部長の浅川信隆老師よりご挨拶と、第23期全曹青の過疎化問題等の活動についての所感、更に第24期全曹青への期待のお言葉を頂戴いたしました。

総会では原知昭第23期会長より、基幹事業であった「過疎問題への取り組み」についての活動結果や問題点、今後の展望など第23期の総括と退任の言葉が述べられました。次に山田俊哉第24期会長より所信表明と第24期スローガン『Paradigm Shift』が発表され、昨今転換期を迎えている社会状況に合わせた青年会活動の必要性と今期の展望が示されました。

オンラインでの新旧役員の交代という前例のない事態となりましたが、画像によるプレゼンテーションも取り入れオンラインを活かした会議となり、会員一同新たな挑戦へ向かう意志を共有しました。

取材／ 広報委員 泉田尚志

第24期委員会総会

令和3年6月11日、第24期委員会総会が行われ、今期出向する各役員がオンライン上に一同に会しました。

初めに山田第24期会長より挨拶があり、今期スローガンである『Paradigm Shift』に合わせ、社会変化に向き合う活動を展開するべく、出向者各位への意志共有、激励の言葉が述べられました。

委嘱状授与では、オンライン上での委員会総会のため、山田会長より各委員へ向け、

授与の言葉が送られました。

続いて各顧問の挨拶が行われた後、各委員会、並びに特別委員会の活動説明と今期委員の紹介がありました。

昨今の社会状況から、各委員とも実際に顔を合わせることは出来ていません。しかしだからこそ、より強い思いで団結して活動する意志を共有しました。

また今回の委員会総会では、シャンティ国際ボランティア会（SVA）の活動紹介と活動への協力をお願いをいただきました。クレーター下のミャンマーへの支援活動について、身につまされる思いでお話を伺いました。

新型コロナウイルス感染拡大の影響から、第24期は社会情勢を鑑み、オンラインツールの積極的な活用が進みます。スローガン『Paradigm Shift』に則し、社会変化に積極的に向き合うべく、会員一同取り組んでまいります。

取材／ 広報委員 泉田尚志

表紙の話

今期スローガン『Paradigm Shift』を意識し、流れる車の光跡を撮影しました。過ぎ去る光跡のように、誰もが小さな変化の積み重ねの中を生きています。小さな積み重ねも、こうして重なることで大きな成長へと繋がります。

撮影地 広島県広島市
撮影 広報委員長 菅悠生



JVOAD全国フォーラム

第24期災害復興支援部では、全曹青のスケールメリットを活かし、被災地の状況をいち早く収集し、全曹青災害メーリングリストにて情報の共有を図り、円滑な支援活動を行います。相互協力協約を締結した曹洞宗事務庁をはじめ、シャンティ国際ボランティア会、曹洞宗婦人会、また前期に加盟したJVOAD（全国災害ボランティア支援団体ネットワーク）と連携を図り、発災時迅速な対応ができるよう平時より体制を構築してまいります。

近年自然災害が多発する現状が続いています。今後迫りくる災害に備えながら、真摯に活動してまいります。

災害復興支援部事務局長

仲野大悟

5月26日・27日、オンラインでJVOADの全国フォーラムが開催されました。当会からは山田会長、支援部コーディネーター岡島副会長、仲野支援部事務局長、清泉庶務が参加させていただきました。初日の交流企画では、各宗教団体の平時からの活動を伺いました。様々な団体が、独自の訓練や地元社協との連携、シミュレーションや研修会を開き防災について考え、多様な取り組みをされておられました。その中で今後、他団体とのさらなる連携の必要性も感じました。2日目には分科会が開かれ、「広がりをもせる災害時における宗教者との三者連携」と題し、当会からは山田会長と原顧問が登壇されました。山田会長からは全曹青の災害復興支援活動の紹介、原顧問からは、災害時における避難所としての寺院の活用、有事における檀家さまとの関係性についてお話がありました。日頃より地域・檀信徒との結びつきが強いお

寺は、有事に避難所として利用することが可能です。地域におけるお寺の重要性をより強く感じました。今後も災害に関する研修会等を活用し、多くの僧侶に日頃からの防災意識を持っていただけるよう努めてまいります。

文／災害復興支援部事務局長

仲野大悟

**支援の三原則を大切にしてきた
宗教者の皆様のあり方**

被災者中心

- 被災地の困難な環境の中でも、被災者の大変な状況に想像を及ぼして、黙々と大変な作業をこなされる姿を多く見かける
- 日常的に信仰に基づく利他的な活動をされる

地元主体

- 強い団結力により、被災地でも現地のルールに則って、品行方正に活動をされる方がとても多い
- 大きな組織では全国に信徒さん（信者さん）がいらっしゃること、地域のことをよく知っている

協働

- ひと・もの・おかねという面での支援に積極的に関与される力を持っていらっしゃることも多い（ネットワーク力）
- 近年、災害VC（社協）や他の支援者との連携した活動が進んできている

Office SONOZAKI
for blissful moment

分科会の様子

**災害 ML
登録フォーム**



災害ML登録のお願い

全曹青では、災害発生時の情報共有を目的に、メーリングリストを活用しています。全国規模での連絡協議体というスケールメリットを活かし、被災地の被害状況・ニーズ・支援の要望を出し合い、迅速な支援活動をお手伝いします。曹洞宗寺院とその関係者の方には、ぜひご登録をお願いいたします。

全日仏青 NEWS



JYBA
ALL JAPAN
YOUNG BUDDHIST
ASSOCIATION

仏法興隆花まつり千僧法要の中止と アショカピラー法要

全日本仏教青年会 新体制スタート

毎年4月26日に全日本仏教青年会主催で開催される仏法興隆花まつり千僧法要を中止とし、正午の祈りへ随喜参列しアショカピラー前での法要が執り行われました。

世界中に猛威を振るっている新型コロナウイルスの感染防止の為やむなく中止をした昨年でしたが、今年こそは何とか開催したいと担当委員会や事務局で感染防止策を考えておりましたが、会場の東大寺のある奈良県や近隣の大阪府、京都府などの感染

者急増に伴う重症者数、入院や療養者数の増加を考慮し全国から僧侶が集結しての法要は中止となりました。しかし、東大寺で毎日お勤めをしている正午の祈り（導師・狭川普文祝下）に、奈良県在住の僧侶が少人数にて参列させていただきました。野外では雲一つない晴天の下、アショカピラー前にて南都二六会東山会長を導師に世界平和と新型コロナウイルス早期終息への祈りを捧げました。僧侶同士の間隔を

広くとり、マスク着用にて行じる姿に社会の変容とコロナ以前の大人数で行じる事のできるありがたさを痛感いたしました。未だ終わりの見えないコロナ禍において私達僧侶のできることは何なのか、地域社会に根付くお寺として何かできることはないのか今一度考える機会となりました。来年こそは全国から参集して大々的な仏法興隆花まつり千僧法要が開催できるようお祈りいたします。

7月2日、全日本仏教青年会定期理事会がオンラインにて開催され第23期が始まりました。

定例ですと新理事長へ交代をして新しく期が始まりますが、今回は第22期理事長天台仏教青年連盟の谷晃仁師が引き続き暫定任期を延長して務めることとなりました。昨年の新型コロナウイルス感染拡大により全日本仏教青年会も様々な事業に制限がかかり、会務運営を手探りで行ってまいりました。

この状況下において、次期理事長の選任を慎重に進め円滑に引き継ぐため、期間を延長して理事長を務めていただくこととなりました。

全曹青からは副理事長として山田俊哉会長をはじめ、理事、事務局次長として7名が出向いたします。全日本仏教青年会第23期の活動にご理解ご協力賜りますよう、よろしく願いたします。

文／ 国際委員長 高柳龍哉





管区理事からのごあいさつ



北海道管区理事

木村 清崇

本年度より、北海道管区理事に就任いたしました曹洞宗北海道第一宗務所青年会の木村清崇と申します。第24期のスローガン『Paradigm Shift』をモットーに、山田会長はじめ執行部を陰ながら支えるとともに、全曹青及び各加盟曹青会との橋渡し役として精進していきます。そして、全国には同世代の青年僧侶が素晴らしい活躍をしていることを積極的に発信していく所存です。2年間どうぞよろしくお願いいたします。



東北管区理事

太田 厚仁

今年度より東北管区理事を務めさせていただくことになりました、青森県曹洞宗青年会の太田厚仁と申します。『東北はひとつ』のスローガンのもと、東北各県曹洞宗青年会の和合・連携・情報交換を密にしていくとともに、東北管区として第24期山田会長を支え、邁進していく所存です。2年間どうぞよろしくお願い申し上げます。合掌



北信越管区理事

伊達 広道

今年度より北信越管区理事を務めさせていただくことになりました、曹洞宗長野県第一青年会の伊達広道と申します。第24期が発足され、『Paradigm Shift』をスローガンとして、まさに様々な事が変化している時期だからこそ、全曹青と各管区曹青会との橋渡し役として、日々精進してまいります。2年間、どうぞよろしくお願いいたします。合掌



関東管区理事

山崎 秀典

昨年度より関東管区理事を仰せつかっております、曹洞宗山梨県青年会・山崎秀典と申します。第23期はコロナ禍でもぶれることなく、柔軟な活動を続けた執行部はじめ、皆さまのお力添えで1年間を終えることができました。第24期は僧侶だからできること、つながる活動が大いに期待されます。微力ながら、尽力してまいります。



東海管区理事

小島 泰寛

昨年度より、東海管区理事を務めさせていただいております、曹洞宗岐阜県青年会の小島泰寛です。全曹青をはじめ、管内各曹青会においてもコロナ禍により活動を制限される状況が続いております。その中で第24期スローガンである『Paradigm Shift』にに合わせて新たな時代へ向けての活動への協力と東海管区各曹青会の橋渡しとなれるよう微力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



近畿管区理事

服部 光昌

昨年度より近畿管区理事を務めさせていただいております、京都曹洞宗青年会の服部光昌と申します。理事1年目はコロナ禍により行事の中止が重なり、オンラインでの活動が中心となりました。2年目もコロナ禍の中での活動となりますが、第24期スローガンでもあります『Paradigm Shift』の只中に、出来ること、変化に対応していくこと、変わらずに続けていくことを考え、理事として精進していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



中国管区理事

松永 俊彦

この度、中国管区理事を務めさせていただきます岡山県曹洞宗青年会の松永俊彦と申します。第24期で掲げられたスローガンは『Paradigm Shift』です。今まさにコロナ禍によって、当たり前だと思っていたものが音を立てて崩れようとしています。新たに掲げられたスローガンのもと会長、執行部と共に微力ながら尽力させていただきます。また中国管内各曹青会との橋渡しになれるよう務めてまいりますので、これから2年間よろしくお願いいたします。



四国管区理事

宮本 隆弘

この度、四国管区理事を務めさせていただきます四国地区曹洞宗青年会の宮本隆弘と申します。第24期のスローガン『Paradigm Shift』のもと、オンライン化など大きく変わる生活様式に 대응できるよう、執行部の皆様に微力ながら支えて精進してまいりますと存じます。また、全曹青と四国青年会との間を取り結び努めてまいります。2年間どうぞよろしくお願いいたします。



九州管区理事

清永 貴司

今期、九州管区理事を務めさせていただき大分県曹洞宗青年会の清永貴司です。管内会員『九州はひとつ』のもと研鑽と懇親に努めておりますが、ここ数年災害が多く活動が厳しい中、全国の皆様から沢山の御支援や励ましのお言葉をいただき心より御礼申し上げます。全曹青と九州をつなぐ為に精一杯努めますのでよろしくお願いいたします。

令

和

2

年

度

会

計

報

告

令和2年度 全国曹洞宗青年会 周年事業基金 報告

令和2年4月1日～令和3年3月31日

歳入総額 3,500,000 円

歳出総額 0 円

差引残額 3,500,000 円

<歳入の部>

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	2,000,000	
本年度積立金	1,500,000	一般会計より
合 計	3,500,000	

<歳出の部>

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
事業費	0	
合 計	0	

令和2年度 全国曹洞宗青年会 ボランティア基金 報告

令和2年4月1日～令和3年3月31日

歳入総額 8,906,501 円

歳出総額 1,236,732 円

差引残額 7,669,769 円

<歳入の部>

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	4,432,471	令和元年度より
本年度積立金	3,000,000	一般会計より
本年度支援金	1,080,530	
納経料	353,500	
雑収入	40,000	
合 計	8,906,501	

<歳出の部>

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
活動費	269,399	令和2年7月豪雨支援活動、研修会、交通費など
活動経費	967,333	
災害見舞金・支援金	140,000	【災害見舞金】岐阜、石見、福岡、熊本、長野2、新潟、山形、山形3、秋田 【災害活動支援金】山形曹洞宗青年会
助成金・会費	200,000	観世ふぉん、チャイルドラインふくしま、JVOAD
ストックヤード	326,885	ストックヤード用品購入費用
東日本大震災慰霊法要	291,460	3月10日開催
事務費	8,988	送料、手数料など
合 計	1,236,732	

令和2年度 全国曹洞宗青年会 次期執行部準備金 報告

令和2年4月1日～令和3年3月31日

歳入総額 748,452 円

歳出総額 0 円

差引残額 748,452 円

<歳入の部>

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
前年度繰越金	248,452	
本年度積立金	500,000	一般会計より
合 計	748,452	

<歳出の部>

(単位:円)

項 目	金 額	備 考
会議費/交通費	0	
合 計	0	

令和2年度 映画事業特別会計 決算報告

令和2年4月1日～令和3年3月31日

歳入総額 1,264,870 円

歳出総額 1,264,870 円

差引残額 0 円

<歳入の部>

(単位:円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	備 考
前年度繰越金	1,264,870	1,264,870	令和元年度より
雑収入	30	0	
合 計	1,264,900	1,264,870	

<歳出の部>

(単位:円)

項 目	本年度予算額	本年度決算額	備 考
事業費	700,000	898,705	頒布用DVD・記念品制作費
活動経費	564,900	366,165	
交通費	200,000	0	
返礼品費	350,000	364,985	返礼品作成費、送料
雑費	14,900	1,180	送金手数料など
合 計	1,264,900	1,264,870	

令和2年度 全国曹洞宗青年会 一般会計歳入歳出決算 報告

令和2年4月1日～令和3年3月31日

歳入総額 30,487,125 円

歳出総額 26,168,936 円

差引残額 4,318,189 円

令和3年度 全国曹洞宗青年会 一般会計歳入歳出予算

令和3年4月1日～令和4年3月31日

歳入総額 28,170,000 円

歳出総額 28,170,000 円

差引残額 0 円

【歳入の部】				△印は減（単位：円）			
款	項	目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考	
1. 基本運営費			3,488,662	3,368,662	△ 120,000		
	1. 会費		2,661,000	2,541,000	△ 120,000		
		1. 同上	2,661,000	2,541,000	△ 120,000		
	2. 繰越金		827,662	827,662	0		
		1. 前年度繰越金	827,662	827,662	0		
2. 事業費			24,801,338	27,118,463	2,317,125		
	1. 賛助費		5,500,000	5,748,000	248,000		
		1. 同上	5,500,000	5,748,000	248,000		
	2. 助成金		13,300,000	13,285,000	△ 15,000		
		1. 事業助成費	13,000,000	13,000,000	0	曹洞宗宗務行より	
		2. 協賛金	300,000	285,000	△ 15,000	広報誌広告協賛金	
	3. 事業収入		6,000,000	5,451,879	△ 548,121		
		1. 同上	6,000,000	5,451,879	△ 548,121	頒布事業等	
	4. 雑収入		0	2,633,576	2,633,576		
		1. 委員会運営費雑収入	0	2,633,576	2,633,576		
	5. 雑収入		1,338	8	△ 1,330	預金利息	
		1. 同上	1,338	8	△ 1,330		
合 計			28,290,000	30,487,125	2,197,125		

【歳出の部】				△印は減（単位：円）			
款	項	目	本年度予算額	本年度決算額	比較増減	備考	
1. 基本運営費			7,110,000	1,108,040	△ 6,001,960		
	1. 会議費		750,000	217,707	△ 532,293		
		1. 役員会	250,000	89,090	△ 160,910	年5回 執行部会・理事会	
		2. 総会	500,000	128,617	△ 371,383	年2回 評議員会・総会	
	2. 執行交通費		5,300,000	326,000	△ 4,974,000		
		1. 役員会	2,800,000	0	△ 2,800,000	オンライン開催	
		2. 評議員	1,000,000	0	△ 1,000,000	書面決議、オンライン開催	
		3. 渉外交渉費	1,500,000	326,000	△ 1,174,000		
	3. 全日仏青関連費		250,000	250,000	0		
		1. 負担金	250,000	250,000	0	全日仏青加盟負担金	
	4. 事務費		680,000	314,333	△ 365,667		
		1. 通信費	350,000	248,926	△ 101,074	郵送料・振込手数料等	
		2. 慶弔費	200,000	22,000	△ 178,000	供花	
		3. 消耗品費	100,000	20,604	△ 79,396		
		4. 備品費	30,000	22,803	△ 7,197		
	5. 雑費		30,000	0	△ 30,000		
		1. 同上	30,000	0	△ 30,000		
	6. 予備費		100,000	0	△ 100,000		
		1. 同上	100,000	0	△ 100,000		
2. 事業費			21,180,000	25,060,896	3,880,896		
	1. 委員会運営費		6,400,000	6,400,000	0		
		1. 総合企画委員会	1,400,000	1,400,000	0	企画運営・頒布事業等	
		2. 広報委員会	2,300,000	2,300,000	0	広報活動等	
		3. 教化委員会	1,400,000	1,400,000	0	教化事業・精進料理教室等	
		4. 国際委員会	900,000	900,000	0	国際事業等	
		5. 執務事業実行委員会	400,000	400,000	0	執務「典座・TENZO」関連事業	
	2. 事業費		5,700,000	6,065,577	365,577		
		1. 本部事業費	4,500,000	6,065,577	1,565,577	頒布事業等	
		2. 研修会開催費	200,000	0	△ 200,000	研修会中止	
		3. 国際活動事業費	300,000	0	△ 300,000		
		4. 禅文化学林開催費	700,000	0	△ 700,000	開催せず	
	3. 広報費		7,700,000	7,539,164	△ 160,836		
		1. 編集費	1,200,000	1,100,000	△ 100,000	広報誌編集費	
		2. 印刷費	2,200,000	2,170,657	△ 29,343	広報誌印刷	
		3. 発送費	3,900,000	3,948,957	48,957	広報誌郵送料	
		4. 封筒制作費	400,000	319,550	△ 80,450	専用封筒・挨拶文作成費	
	4. 助成金		400,000	0	△ 400,000		
		1. 管区大会助成金	400,000	0	△ 400,000	すべて中止	
	5. 積立金		850,000	5,000,000	4,150,000		
		1. 周年事業基金	100,000	1,500,000	1,400,000		
		2. 次期執行部準備金	250,000	500,000	250,000		
		3. その他	500,000	3,000,000	2,500,000	ボランティア基金へ	
	6. 雑費		30,000	56,155	26,155		
		1. 同上	30,000	56,155	26,155		
	7. 予備費		100,000	0	△ 100,000		
		1. 同上	100,000	0	△ 100,000		
合 計			28,290,000	26,168,936	△ 2,121,064		

※尚、各項目間の流用を認めるものとする。

【基金】ボランティア基金 7,669,769 円
周年事業基金 3,500,000 円
次期執行部準備金 748,452 円

全国曹洞宗青年会 会長 原 知昭
会計 武田信光

【歳入の部】				△印は減（単位：円）			
款	項	目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備考	
1. 基本運営費			3,488,662	6,859,189	3,370,527		
	1. 会費		2,661,000	2,541,000	△ 120,000		
		1. 同上	2,661,000	2,541,000	△ 120,000	前年度会費決算額を参考	
	2. 繰越金		827,662	4,318,189	3,490,527		
		1. 前年度繰越金	827,662	4,318,189	3,490,527	事業助成金項目参照	
2. 事業費			24,801,338	21,310,811	△ 3,490,527		
	1. 賛助費		5,500,000	5,500,000	0		
		1. 同上	5,500,000	5,500,000	0		
	2. 助成金		13,300,000	10,300,000	△ 3,000,000		
		1. 事業助成費	13,000,000	10,000,000	△ 3,000,000	曹洞宗宗務行より。本年度のみ、コロナ禍により前年度繰越金が300万円多くなつたことを見込んで減額した助成金となった。	
		2. 協賛金	300,000	300,000	0	広報誌広告協賛金	
	3. 事業収入		6,000,000	5,500,000	△ 500,000		
		1. 同上	6,000,000	5,500,000	△ 500,000	頒布事業等	
	4. 雑収入		0	0	0		
		1. 委員会運営費雑収入	0	0	0		
	5. 雑収入		1,338	10,811	9,473		
		1. 同上	1,338	10,811	9,473	預金利息等	
合 計			28,290,000	28,170,000	△ 120,000		

【歳出の部】			△印は減（単位：円）			
款	項	目	前年度予算額	本年度決算額	比較増減	備 考
1. 基本運営費			7,110,000	6,210,000	△ 900,000	
	1. 会議費		750,000	450,000	△ 300,000	
		1. 役員会	250,000	200,000	△ 50,000	年5回執行部会・年5回評議員会・1.2回オンライン
		2. 総会	500,000	250,000	△ 250,000	年2回 評議員会・総会半定期中止
	2. 執行交通費		5,300,000	4,600,000	△ 700,000	
		1. 役員会	2,800,000	2,400,000	△ 400,000	年5回執行部会・年5回評議員会・1.2回オンライン
		2. 評議員	1,000,000	1,000,000	0	年2回 定期・臨時評議員会・定期オンライン
		3. 渉外交渉費	1,500,000	1,200,000	△ 300,000	管区大会・協議会・全日仏青等
	3. 全日仏青関連費		250,000	250,000	0	
		1. 負担金	250,000	250,000	0	全日仏青加盟負担金
	4. 事務費		680,000	780,000	100,000	
		1. 通信費	350,000	350,000	0	郵送料・振込手数料等
		2. 慶弔費	200,000	200,000	0	祝賀・慰候・添装等
		3. 消耗品費	100,000	200,000	100,000	初年度名刺・郵便封筒作成費等
		4. 備品費	30,000	30,000	0	
	5. 雑費		30,000	30,000	0	
		1. 同上	30,000	30,000	0	
	6. 予備費		100,000	100,000	0	
		1. 同上	100,000	100,000	0	
2. 事業費			21,180,000	21,960,000	780,000	
	1. 委員会運営費		6,400,000	5,800,000	△ 600,000	
		1. 総合企画委員会	1,400,000	1,300,000	△ 100,000	企画運営・頒布事業等
		2. 広報委員会	2,300,000	2,200,000	△ 100,000	広報活動等
		3. 教化委員会	1,400,000	1,300,000	△ 100,000	教化事業・精進料理教室等
		4. 国際委員会	900,000	1,000,000	100,000	国際事業等
		5. 執務事業実行委員会	400,000	400,000	△ 400,000	
	2. 事業費		5,700,000	6,330,000	630,000	
		1. 本部事業費	4,500,000	5,030,000	530,000	本部企画事業・頒布事業等
		2. 研修会開催費	200,000	300,000	100,000	中央研修会等
		3. 国際活動事業費	300,000	300,000	0	
		4. 禅文化学林開催費	700,000	700,000	0	
	3. 広報費		7,700,000	7,800,000	100,000	
		1. 編集費	1,200,000	1,200,000	0	
		2. 印刷費	2,200,000	2,200,000	0	
		3. 発送費	3,900,000	4,000,000	100,000	
		4. 封筒制作費	400,000	400,000	0	専用封筒・挨拶文作成費
	4. 助成金		400,000	300,000	△ 100,000	
		1. 管区大会助成金	400,000	300,000	△ 100,000	東北・東海・中国
	5. 積立金		850,000	1,600,000	750,000	
		1. 周年事業基金	100,000	500,000	400,000	
		2. 次期執行部準備金	250,000	100,000	△ 150,000	
		3. その他	500,000	1,000,000	500,000	ボランティア基金へ
	6. 雑費		30,000	30,000	0	
		1. 同上	30,000	30,000	0	
	7. 予備費		100,000	100,000	0	
		1. 同上	100,000	100,000	0	
	合 計		28,290,000	28,170,000	△ 120,000	

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度のご協力いただき誠に有難うございました。

◆福島県

173 長慶寺 様
226 常隆寺 様
266 洞雲寺 様
275 性源寺 様
304 梵音寺 様
377 宝積寺 様
405 勝方寺 様
461 正法寺 様

◆宮城県

16 林香院 様
29 秀林寺 様
59 清水寺 様
76 清涼寺 様
212 祥雲寺 様
213 松窓寺 様
282 耕徳院 様
330 天星寺 様
352 安永寺 様
371 頼光寺 様
420 玖光院 様
446 柳徳寺 様

◆岩手県

7 永祥院 様
28 聖福寺 様
44 江岸寺 様
81 円城寺 様
97 浄光寺 様
133 大林寺 様
158 願成寺 様
187 高建寺 様
196 建高寺 様
226 長林寺 様
290 長泉寺 様

◆青森県

66 大慈寺 様
74 浮木寺 様
100 澄月寺 様

◆山形県1

101 長泉寺 様

◆山形県2

322 洞松寺 様

◆山形県3

468 宗伝寺 様
663 正徳寺 様
671 海禅寺 様
723 高伝寺 様
734 東光寺 様
737 長秀寺 様

◆秋田県

1 鱗勝院 様
17 補陀寺 様
70 玉竜寺 様
75 泉流寺 様
116 龍安寺 様
186 永泉寺 様
206 松雲寺 様
252 長泉寺 様
260 松庵寺 様
261 見性寺 様
262 龍江寺 様
265 倫勝寺 様
279 宝昌寺 様
323 恩徳寺 様

◆北海道1

90 含笑寺 様
95 龍興寺 様
96 観音寺 様
99 全久寺 様
253 大慈寺 様
468 養福寺 様

◆北海道2

165 玉運寺 様
241 孝徳寺 様
248 總泉寺 様
260 龍雲寺 様
279 西乗寺 様
299 永福寺 様
352 大祥寺 様
419 竜門寺 様
455 玉法寺 様

◆北海道3

204 開法寺 様

インターネット
受付分

◆島根県2

5 地福寺 様

ボランティア基金感謝録

2021年4月1日～2021年6月30日取扱い分

広島県 146 福善寺 様

仏壇・仏具・神具・川連漆器・寺院用仏具
御内陣用荘厳・設計・修復・施工全般



有限
会社

阿部正助商店

本 社 ☎012-0104 秋田県湯沢市駒形町八面袖沢56

電 話 (0183) 4 2 - 2 2 5 1

FAX (0183) 4 2 - 3 7 9 5

秋田支店 ☎010-0002 秋田県秋田市東通仲町24-11

電話・FAX (018) 8 3 3 - 0 6 3 1

能代支店 ☎016-0844 秋田県能代市花園町11-13

電話・FAX (0185) 5 4 - 4 1 1 8

賛助費納御芳名簿

2021年4月1日～2021年6月30日取扱い分

◆東京都

3 俊朝寺 様
90 梅岩寺 様
101 心月院 様
106 観泉寺 様
210 法清寺 様

◆神奈川県2

1 本覺寺 様
59 大林寺 様
83 正翁寺 様
97 東福寺 様
131 乗福寺 様
186 浄雲寺 様

◆埼玉県1

67 寶國寺 様
92 浄山寺 様

◆埼玉県2

269 常圓寺 様
368 東昌寺 様

◆群馬県

77 龍門寺 様
276 陽雲寺 様
292 光厳寺 様

◆栃木県

1 成高寺 様
103 光真寺 様

◆茨城県

1 祇園寺 様
2 天徳寺 様
13 竜泉院 様
39 常安寺 様
182 龍心寺 様
197 長竜寺 様

◆千葉県

2 宗胤寺 様
7 満蔵寺 様
22 廣寿寺 様
29 慶林寺 様
56 永興寺 様
93 芳泰寺 様
133 永昌寺 様
185 勢國寺 様
212 真光寺 様
272 永泉寺 様

◆山梨県

332 松岩院 様

◆静岡県1

26 宝珠院 様
34 洞慶院 様
165 光明寺 様
394 萬松院 様
421 盤脚院 様
463 栄昌寺 様
501 養徳寺 様

◆静岡県2

325 海蔵寺 様
332 龍雲寺 様
368 曹洞院 様

◆静岡県3

634 光明院 様
676 孤雲寺 様
927 正眼院 様
989 観音寺 様
1208 法雲寺 様
1228 栄林寺 様

◆静岡県4

1095 天林寺 様

◆愛知県1

7 全香寺 様
53 普蔵寺 様
101 成福寺 様
108 香積院 様
112 太平寺 様
133 瑞泉寺 様
135 光明寺 様
138 長翁寺 様
139 祇園寺 様
156 地藏寺 様
158 秀伝寺 様
162 妙淵寺 様
173 神蔵寺 様
229 寶泉寺 様
313 長松寺 様
317 常観寺 様
336 弥勒寺 様
341 一心寺 様
375 春江院 様
605 天徳寺 様
625 宝積寺 様

◆愛知県1

635 永澤寺 様
824 東昌寺 様
1119 松月寺 様

◆愛知県2

723 西漸寺 様
893 法蔵寺 様

◆愛知県3

431 報恩寺 様
557 楞嚴寺 様
滴禪会 様

◆岐阜県

80 龍泰寺 様
120 清安寺 様
122 大竜寺 様
153 宗久寺 様
172 洞雲寺 様
189 久昌寺 様
190 長久寺 様
217 本覚寺 様

◆三重県1

6 常在院 様
37 四天王寺 様
114 海禪寺 様
276 地藏院 様
316 剣光寺 様

◆滋賀県

143 永寿院 様

◆京都府

91 福泉寺 様
161 禪福寺 様
236 善光寺 様
367 福昌寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

26 天徳寺 様
49 崇徳寺 様
121 禪徳寺 様

◆奈良県

68 景德寺 様

◆和歌山県

10 窓響寺 様

◆兵庫県1

287 向榮寺 様
302 月照寺 様
305 雲晴寺 様
403 善福寺 様

◆兵庫県2

134 谷松寺 様
147 長楽寺 様
221 永源寺 様
228 豊楽寺 様

◆岡山県

1 円通寺 様

◆広島県

1 国泰寺 様
7 伝福寺 様
22 光禪寺 様
26 正福寺 様
46 双照院 様
48 真観寺 様
76 長福寺 様
89 積善寺 様
95 泉龍寺 様
100 中興寺 様
133 少林寺 様
143 常林寺 様
152 雲竜寺 様
177 功德寺 様
178 慶雲寺 様

◆山口県

54 昌福寺 様
111 溪月院 様
145 久屋寺 様
229 妙栄寺 様

◆鳥取県

27 景福寺 様
182 東光寺 様

◆島根県1

305 海雲寺 様

◆島根県2

32 宗淵寺 様
63 龍覚寺 様
70 完全寺 様
135 薬師寺 様
141 本願寺 様
187 養善寺 様
195 總光寺 様

◆香川県

3 南隆寺 様

◆高知県

24 報恩寺 様

◆愛媛県

18 陽春院 様
146 興雲寺 様

◆福岡県

5 妙徳寺 様
25 南林寺 様
28 桂木寺 様
82 正安寺 様
143 円勝寺 様

◆大分県

16 勝光寺 様
82 多福院 様
175 羅漢寺 様

◆長崎県1

42 西方寺 様
78 宝泉寺 様

◆佐賀県

118 養寿寺 様
194 普恩寺 様

◆熊本県2

88 明德寺 様
105 芳證寺 様
122 国照寺 様

◆宮崎県

54 善栖寺 様

◆長野県1

65 柳原寺 様
330 興善寺 様
338 長谷寺 様
364 竜昌院 様
370 日輪寺 様

◆長野県2

389 宗福寺 様
420 金松寺 様
508 眞浄寺 様
512 浄蓮寺 様
603 長性院 様

◆富山県

54 大淵寺 様
98 足蹴寺 様

◆新潟県1

368 正通寺 様
389 雲居寺 様
393 曹源寺 様
441 正應寺 様
442 妙高寺 様
496 長楽寺 様
503 竜源寺 様

◆新潟県3

578 顕聖寺 様

◆新潟県4

9 東陽寺 様
23 観音寺 様
196 香伝寺 様
238 光浄寺 様
259 長楽寺 様
263 海蔵寺 様
265 東林寺 様
295 普濟寺 様
817 日照寺 様

◆福島県

10 佛母寺 様
14 円通寺 様
79 西松寺 様
99 茂林寺 様
101 成林寺 様
110 龍徳寺 様
111 普光寺 様
156 大竜寺 様

全国曹洞宗青年会

第二十五期会長選考について（公募）

会長選考委員会に於いて、会則並びに細則に従って左記の事項が決定されました。全国曹洞宗青年会第二十五期会長に立候補する者は、左記の要綱に従い、立候補届けを完了して下さい。

全国曹洞宗青年会 第二十五期会長選考委員会 委員長 太田厚仁

記

●全国曹洞宗青年会 第二十五期選考委員会 届出要綱

- 一、立候補並びに履歴書の提出
- 二、立候補者の曹洞宗青年会における経歴書の提出
- 三、推薦状 ①管区曹青会代表者

②曹青会代表者

- 四、立候補に当たっての執行方針の提出
- 五、立候補届出先

「全国曹洞宗青年会 第二十五期選考委員会 委員長 太田厚仁」宛

〒〇三六―八二七三

青森県弘前市西茂森二五―一 宝積院内

電話 〇一七二―三三―〇七八三

- 六、立候補届出期限 令和四年一月三十一日（月）必着

- 七、立候補届出方法 必ず郵便書留にてお願い致します。

- 八、選考委員会構成員

選考委員長 太田厚仁（東北管区理事）

選考副委員長 宮本隆弘（四国管区理事）

選考委員 山田俊哉（第二十四期会長）

山崎秀典（関東管区理事）

小島泰寛（東海管区理事）

松永俊彦（中国管区理事）

木村清崇（北海道管区理事）

伊達広道（北信越管区理事）

服部光昌（近畿管区理事）

清永貴司（九州管区理事）

※会則につきましては全曹青公式HP『般若』に掲載しております。

<http://www.sousei.gr.jp/>

以上

全曹青からの お知らせ

この度、全国曹洞宗青年会公式ホームページ『般若』がリニューアルいたしました！

新しいホームページ『般若』は、今までと同じく全曹青の活動告知や報告、加盟・関係団体の活動情報が発信されるだけではありません。新たに「坐禅・精進料理」や「写経」のような、一般の方が青年僧侶の活動を理解しやすいメニューも追加しています。昨今、自宅で身近に触れる事ができるコンテンツへの需要が高まっています。より多くの方に、全曹青の活動や制作コンテンツに触れていただく事が可能になりました。

また、PCはもちろんスマートフォンでも快適な表示を追求し、さらに各記事の下部には1アクションでSNSにシェアすることができる「シェアボタン」を設置しています。僧侶間での情報共有や、一般の方に向けた教化活動にもご利用いただけます。



sousei.gr.jp

